

# 美術☆夏休みの課題「美術館へ行こう！」

美術館や美術展に出かけ芸術を鑑賞し、印象に残った作品の感想をまとめて、9月3日(月)に提出。

※9月3日はクラスごとにまとめて美術準備室前のBOXに提出してください。

★鹿児島市立美術館「ミュシャ展～運命の女たち～」→→入場受付で学校名を伝えると入場料が200円で鑑賞できます。通常、中学生の入場料は600円です。

※上記以外の美術館・美術展でもかまいません。

- ☆学芸員によるギャラリートーク：7/28,8/11,8/25(土) 14:00~15:00
- ☆記念ワークショップ 8月5日(日) 10:00~16:00「はじめてのリトグラフ」
- ☆夏休みワークショップ8月19日(日) 10:00~11:30または13:30~15:00  
「(仮)花の妖精のすみかをつくろう!~ミュシャ風塗り絵とオブジェ~」

※各ワークショップは、事前の申込み及び材料費が必要です。興味と日程があったら参加してみましよう。詳しくは美術館ホームページで確認してください。

氏名	2年組番	行った日	8月7日(火)
		美術館・美術展名	鹿児島市立美術館 ミュシャ展

作品名	カレンダー「四季：春夏秋冬」	作者名	アルフォンス・ミュシャ
感じたこと	この作品は、四季を表現するのに、さまざまな女性の雰囲気でも表している。春は、桃色を中心に、優しい感じをだしている。夏は、ひまわりを中心に、活気ある構図になっている。秋は、果物を描いていて、実りの秋を感じさせている。冬は、雪を中心に、寒そうにしている女性を描いていて、とても面白い。		

作品名	《スラフの人々》のための習作	作者名	アルフォンス・ミュシャ
感じたこと	これは、晩年の水彩画である。これは、初期作品と感じがちがっていて、花や女性を使わず、はなやかな感じではない。線もほかかされていて、ミュシャの故郷への愛しさや、この作品を描いた場所のきょうくつさが重なって描かれている。とても悲しくなる作品である。		

作品名	一日：朝目覚め、昼の輝き、夕べの夢想	作者名	アルフォンス・ミュシャ
感じたこと	この作品は、もっとも有名で、美しいといわれている。連作装飾パネル。この作品は、「朝」になって目覚め、「真昼」に生命力が満ちていることがこの顔から分かる。そして、「夕べ」に物思いにふけて、「夜」の眠りにおちるといった一日の異なる時間帯を表している。とてもみでいて楽しい作品だ。		

※鑑賞レポートは、2学期の評価材料となります。